

障害者における I T 時代？

I T の活用で、発話によるコミュニケーション障害のある方々も恩恵を受けていることは確かな事実である。でも、本当に障害者に対する I T 時代といえるのかという体験をした。

私の 35 年来の知り合いの女性が、ある施設に入居している。発話はなく、手も動かさず、かるうじて頭部の動きでスイッチを ON,OFF することで、P C のあるソフトで文章を作成できる。先日面会に行くと、P C がトラブルで動かないとのこと。スタッフに聞くと、使用の仕方を工夫し支援してくれ、今までトラブった時に駆けつけてくれた方が、転勤で遠方に行っていまい、困っているとか。「P C、及びソフト販売会社に来てもらったら」というと、「電話で相談すると、支社では対応できないので東京の方へ P C を送り修理を」と言われたとか。

今時、P C を重度身体障害者に東京に送れとよくいえたものと思う。それが、障害者用のソフトを手がけている会社のいうことかと腹が立った。アフタ - ケアまでつき合うことが、障害者と歩むことでないのか。

障害者における I T 時代って、どういうことかと考え込んでしまった。(私は私で人脈を使い、何とか解決策はないかとメル友に問い合わせている。)

(2002 年 10 月 03 日 記)